



図24 蟹沢湿原のプロファイルと植物の分布（榎村ほか1981より）

有の景観はこの中央部にみられ、周辺部は低層湿原ないしヨシ沼沢がとりまいていることが多い。中央部の景観の第1は小さな凸状地（小凸地，ハンモック）と小さな凹地（小凹地，ホロー）とが交錯するものである。また、小凸地と小凹地の中間の平坦地（ローン）もみられる。小凹地には水が溜り、池塘となっていることもある。これら微地形の形成のしくみについては二、三の説があるが、はっきりしない。

小凸地にはヌマガヤが繁茂し、イボミズゴケやムラサキミズゴケなどの大型のミズゴケがマット状の群落をつくっている。また、ローンには、尾瀬ヶ原の場合ではキダチミズゴケが平坦なマットをつくる。小凹地にはさまざまなタイプの植生がみられるが、もっともふつうのものはミカヅキグサである。また、ミズゴケではハリミズゴケがよくみられる。これら中央部の植生と周辺のヨシ群落の間は比較的乾燥する部分で、ヌマガヤが密生するがミズゴケのマットはみられないことが多い。夏早くニッコウキスゲの黄花が咲き乱れるのもこのあたりである。

福島県域で高層湿原がみられるのは標高700～800 m以上の山地帯上部以上の地である。とくに雪どけ水によるかん養が考えられる日本海岸側の山地で発達がよい。尾瀬ヶ原のように谷湿原として発達したもののほか、雪田の一部として発達した山地湿原も多い。福島県域では、特別天然記念物である尾瀬（南会津郡檜枝岐村）のほか、天然記念物の赤井谷地（会津若松市）、雄国沼湿原（耶麻郡北塩原村）、駒止湿原（大沼郡昭和村、南会津郡田島町）がある。また南会津郡南郷